

彩の国 連携力育成プロジェクト ニュースレター

第9号

2015年12月15日発行



【発行】埼玉県立大学／埼玉医科大学／城西大学／日本工業大学

【お問い合わせ先】埼玉県立大学事務局・企画担当 ☎ 048-973-4715 / ✉ kikaku@spu.ac.jp

4大学連携IPW実習が行われました

8月24日～27日、4大学連携IPW（専門職連携）実習が行われました。大学・学科混成の学生チームが県内の協力施設において、IPWに関する学びを深めました。

「患者さんや利用者さんに対して、より良い生活のための提案をする」という課題のために、実習前に何をなすか、実習先での3日間をどう過ごすか…IPW実習では、学生自ら実習計画を立案し、施設で本実習をご担当くださる方や、各チームを担当する教員と相談します。事前オリエンテーションから報告会に至るまで、参加学生は熱心に情報収集や話し合いを重ね、課題に取り組みました。

本実習は、彩の国連携力育成プロジェクト（通称：Saipе）の取り組み初年度から行われており、今回が4回目の試行となります。実習規模も徐々に拡大し、今年度は県内各地、11の保健医療福祉施設にご協力いただき、4大学から計66名の学生が参加しました。

実習先での3日間を終え、8月27日にはウエスタ川越で実習報告会が行われました。当日は、実習施設の方々や、IPWにご関心のある方々など、多くの方にご参加いただきました。各チームは、自分たちの「提案」や、そこに至るまでにチーム形成がどのように進んでいったのか、などを報告しました。その後の全体討議では、「提案に至るまでの間にチームにどのような“葛藤”があったのか」「提案の実現可能性は？」といった内容についてチーム同士で質問し、実習中の体験や実習を通じて得た考えを共有することで、実習の学びをさらに深めました。



情報を整理した結果をチーム全員で確認しています。



利用者さんの生活に対する「よりよい提案」をすべく、ご本人にインタビュー。



自分たちの活動を振り返り、チーム形成に関して発表します。



「IPW 実習」を終えて

初対面の4大学の学生が4日間の実習を通してチームとなり、「利用者の望む地域での暮らし」を支えていくプランを考えました。その過程こそが専門職連携であり、その体験をしている彼らの今後の活躍が楽しみです。



埼玉医科大学

本橋千恵美 特任准教授

この4日間はどんな実習よりも一番学ぶことが多く、考えたり話し合ったりすることが面白いと思えるようになった、とても充実した日々でした。今回の経験をしっかりと心の奥に留めておきたいと思います。



埼玉県立大学 社会福祉学科4年

額賀愛美 さん

日本工業大学でIPW論を試行

患者・利用者中心の支援活動をチームで行うための基本的な考え方とスキルを学ぶ講義「IPW論」の内容の一部が、日本工業大学の科目「ユニバーサルデザイン論」に試験的に導入されました。



「3年生で取り組みたい設計製図課題」をテーマにディスカッション。

受講生の感想

「グループの中で円滑に意見を出してまとめていく手段を学べた」「話しやすい環境づくりに気を配ることで驚くほど話し合いに参加できた」「リフレクションを挟むことで、話し合い自体を見つめることができた」

IPW論は、埼玉県立大学の必修科目。自分が目指す専門職や、それ以外の関係職種に対する理解を深め、チーム活動の基本的なスキルを学びます。地域住民の暮らしを支えることのできる専門職を育成する「彩の国連携力育成プロジェクト」も、IPWの方法論について、分野の異なる4大学の学生が共通の知識をもつために、この科目を4大学の「彩の国大学連携科目」の一つとして位置付けています。

日本工業大学では10月8日、22日の2日間、生活環境デザイン学科2年生の科目「ユニバーサルデザイン論」においてIPW論の内容を試験的にとり入れた講義が行われました。テーマは、「グループワークについて」。グループワークに取り組むチームが初めて顔を合わせた時から、信頼関係を深めていくプロセスや、チームが円滑に活動していくにあたって必要となる「チームのルールの作成」等のノウハウを学び、その後小グループに分かれて、対話の練習を行いました。

interview

『連携を語る』

野島さんは、学生を含む地域の様々な人々の介助を受けながら、春日部市の団地に暮らす女性です。街づくり・地域づくりのために、電動車イスを使って埼玉県内外を奔走しており、また埼玉県立大学の講義「ヒューマンケア論」にも毎年登壇しています。

野島さんは、介助の制度が整っていなかった時代から、自らどんどん街に出ることによって、地域住民とつながり、介助者や仲間とつながり、市や県による制度とつながりながら、これまで歩んできました。埼玉県立大学の聴講生になったことも。「学びたかったということもあるけど、聴講生になれば介助ボランティアをしてくれる学生をつかまえやすくなって考えて。私は戦略的なんです…」野島さんと生活を共にしながら多くのことを学んだ卒業生は沢山います。

学生への期待をたずねたところ「たった一度の人生。大学生活4年間、勉強とバイトも大切だけど、ぜひ街に出て様々な人とつながって、いろいろなことにチャレンジしてほしい」と話してくださいました。

さまざまな分野の方にインタビューを行い、連携の魅力や課題などを語っていただきます。今回のゲストは、埼玉障害者市民ネットワーク 代表の野島久美子さんです。



上品な着物は、上下が分かれる二部式。着やすいよう工夫が施されています。



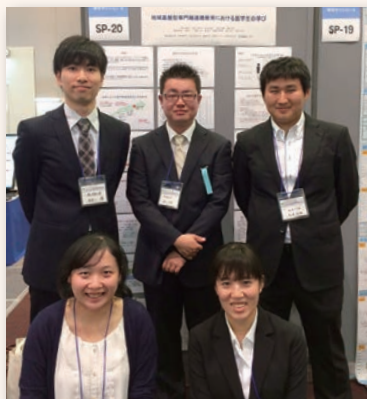
毎年県内で行われる「ちんどんパレード」。野島さんはバニー姿に仮装して参加！

取り組み成果を国内外に発信！

平成27年度も、本プロジェクトにおける様々な取り組み成果が国内外の学会で発信されました！

国内 DOMESTIC

今年度は、日本保健医療福祉連携教育学会をはじめ、看護学、医学教育、地域医療、社会福祉学、福祉教育など様々な分野の国内学会で発表等が行われました。



日本医学教育学会ではIPW実習を体験した医学生がポスター発表し、他大学の学生と活発な意見交換をしました。

本取り組みを発表した学会等(平成27年度)

日本赤十字看護学会／MEDC／日本医学教育学会／日本保健医療福祉連携教育学会／日本社会福祉学会／全国国保地域医療学会／日本福祉教育・ボランティア学習学会／日本公衆衛生学会

国外 INTERNATIONAL



4大学の教職員や学生が対話する「4大学連携ワークショップ」の成果を発表しました。

『An International Association for Medical Education 2015』(英国・9月5日～9日)のポスター発表では、本取り組みに多くの関心が寄せられました。

発表を終えて

各国のIPE(専門職連携教育)の事例報告等から多くの情報を得るとともに、Saipeの地域基盤型IPEの意義を改めて実感する良い機会となりました。



城西大学薬学部 **古屋 牧子** 助教

発信から交流へ つながる・広がる プロジェクトの輪

これまで行われてきた本プロジェクトの発信をご覧になった方々が、本取り組みを見学、インタビューにお越しくださいました。Saipeの発信から生まれた新たなつながりをご紹介します。

「奈良の医療介護の連携を考える 学生の会」にご訪問いただきました

9月
24



IPW関連科目の運営方法や成果について、情報を共有しました。

奈良県立医科大学の学生と奈良県庁職員が埼玉県立大学に来訪。奈良県でIPEを進める企画を計画中とのことで、教育内容・教育方法についての情報提供を行いました。

日本福祉大学の先生方にご訪問いただきました

10月
9



社会福祉士養成課程におけるIPEの意義について話し合いました。

10月に実施した埼玉県立大学・埼玉医科大学のIPW実習報告会に、日本福祉大学の先生方が視察に来訪。その後IPEの教育方法等についてのインタビューを受けました。

学生共同学習企画、実施中

4大学の学生が交流し、主体的にIPWを体感できるように、4大学の教員が各々の専門性を活かし計画・実施している「共同学生学習企画」。今年度行われた取り組みの様子をご紹介します。

知的障害を持つ方々と交流しよう

7月18日(土)、埼玉県立大学において、知的障害のある本人の会である「さいたまみんなの会」とその関係者34名、県立大学生13名、城西大学生7名による交流会が開催されました。午前中は8つの班に分かれていろいろなレシピのカレーライスを調理。食事ののち午後はレクリエーションを楽しみました。



「こうした経験は普段の学習だけでは決して味わえず、様々な人と触れ合い、新たな自分が生まれた」と、学生の感想が。

重い障害を持つ方々の「地域での暮らし」を考えよう

9月11日(金)の学習会では、「ケアホームみらい」でゆっくりと過ごす入居者に寄り添い、参加者は多くを学んだ様子。「医療的ケアを要する入居者が特別な存在ではなく、職員と入居者で壁を作らず、家族のように過ごす空間はとても新鮮」との感想を綴ってくれました。



この学習会は、東松山市にある「ケアホームみらい」のご協力を得て実施。埼玉県立大学看護学科1年生が参加しました。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015川越

がん患者とその家族を支援する同イベント。今年は4大学のチームとして、学生11名が参加しました。24時間タスキをつないで歩く「命のリレー」では、教職員も交え夜通し交代でリレーを続けました。ブースでは、しゃぼん玉づくり体験や「夜カフェ」などの企画を実施し、多くの参加者と交流を図ることができました。



(左) 4大学チームのタスキと旗は学生たちの手作り。(右)「夜カフェ」でがん患者のお話をうかがいました。

「地域をケアする」ことについて考えよう

秋も深まる11月の夜、「地域ケアよしかわ」(吉川市)において勉強会が開催されました。地域に開かれた場を提供し、「地域をケアする」活動について3名の実践者の方からお話をうかがいました。その後は、参加学生有志が用意した食事を楽しみながら、感想や意見を交わし、交流を深めました。



会場には4大学の学生はもちろん、卒業生や近隣の他大学学生も含め、30名以上が参加。

Information

公式ホームページ、Twitter、Facebookで情報配信中!



<http://www.facebook.com/saipe00/>



@saipe00



<http://saipe.jp/>

